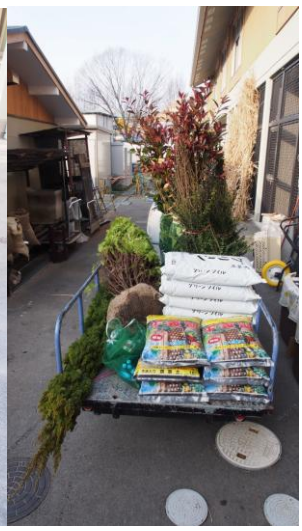
# 【ゴリラの行動観察とエンリッチメント】実施報告

○開催日時：平成２７年１月２５日（日）　９：００～１２：００
○参加者：京都市立高野中学校　生徒３名，引率１名
同志社女子中学校　生徒２名，引率１名
樟蔭中学・高等学校　生徒３名，引率１名
京都高度技術研究所　１名
京都市動物園　５名　計１７名
○活動内容

従来の動物園におけるゴリラの展示施設は，地上生活者として展示されてきた。しかし，近年の調査研究から，ニシローランドゴリラはチンパンジーと同様に樹上性が高いことが分かってきた。このことは動物園職員が野生ゴリラの生息地であるガボン共和国のムカラバ・ドゥドゥ国立公園を訪ねて直接見聞きしたことでもある。

これらの知見を含めた最新の知識を伝えるための新施設を昨年 4 月にオープンした。そこで，今回は新施設におけるゴリラの空間利用も含めた行動調査を実践し，調査･研究活動を体験する。また，動物園が現在力を入れて取り組んでいる飼育動物の生活環境をより豊かにする取組（エンリッチメント）として，グラウンドへの植樹及び給餌活動を行う。なお，給餌は，天井も利用した広範囲に餌を設置することで，野生下では日常的に行われている彼らの樹上での採食を再現する方法とする。そして，それらの餌をどのように採餌していくのか，植樹した場所への反応などを観察し，それぞれの行動を分析する。また，国内で唯一行っているゴリラの知性の研究についても紹介し，より深くゴリラを学ぶ。



用意したのは，生け垣として使われているプリペット，ベニカナメモチ，コノテヒバ，カイヅカイブキです。ゴリラの遊び場や隠れ場所として使うことが出来るため飼育環境の向上に役立ちます。また，常緑樹であり，緑の中で過ごすゴリラを感じることが出来ます。

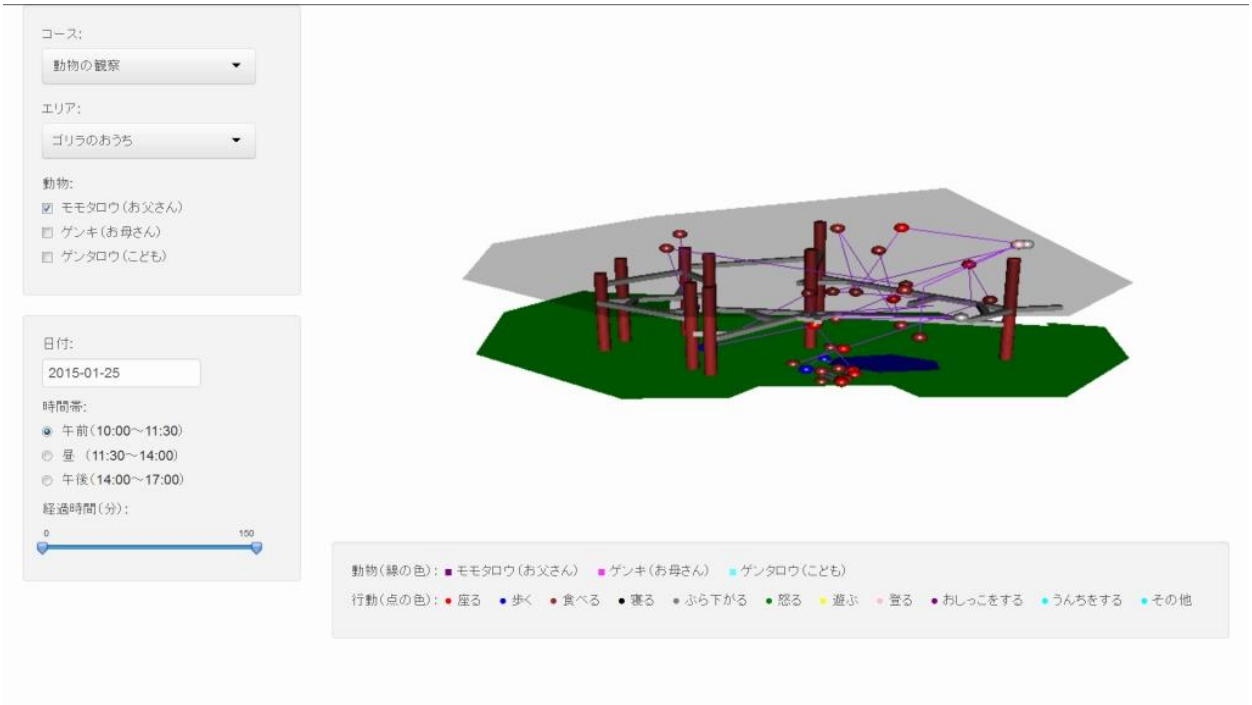
まずは，ゴリラのグラウンドに植樹をします。スコップで穴を掘り，培養土・腐葉土を混ぜ合わせた土と樹を約 40cm 間隔で植え付けていきます。

植え付けが終わった後は，ゴリラの餌を準備します。グラウンドに撒いたり，隠したりしていきます。そして，植樹した樹々の間にも餌を撒くとともに，前回のサイエンス・パートナーシップ・プログラムで作った吊るし柿も隠しておきます。

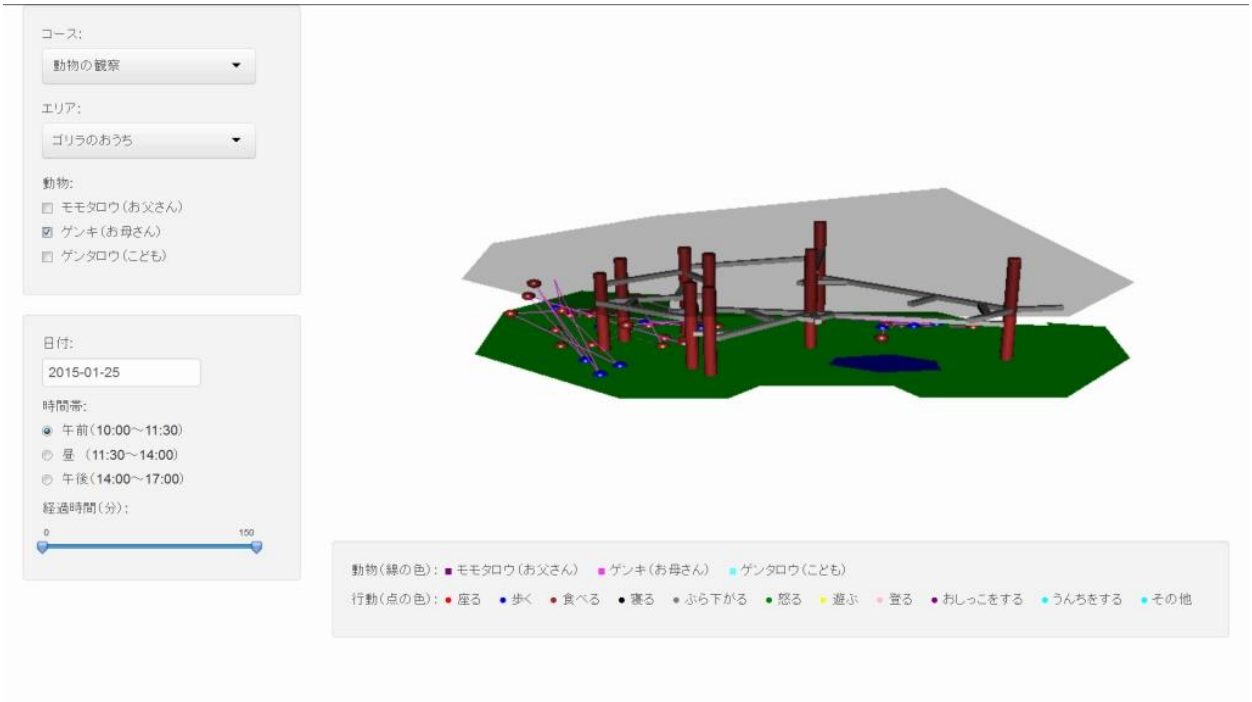
そして，「ゴリラのおうち」の特徴にもなっている上部のキャットウォークから天井部にも餌を撒いておきます。こうすることで，樹上での採食行動を引き出します。

餌の準備が出来たら，次は行動観察の準備です。今回は，タブレットで行動観察アプリを活用して行うため，アプリ担当者から操作方法を学びます。
観察準備が出来たら，いよいよゴリラにグラウンドを開放します。

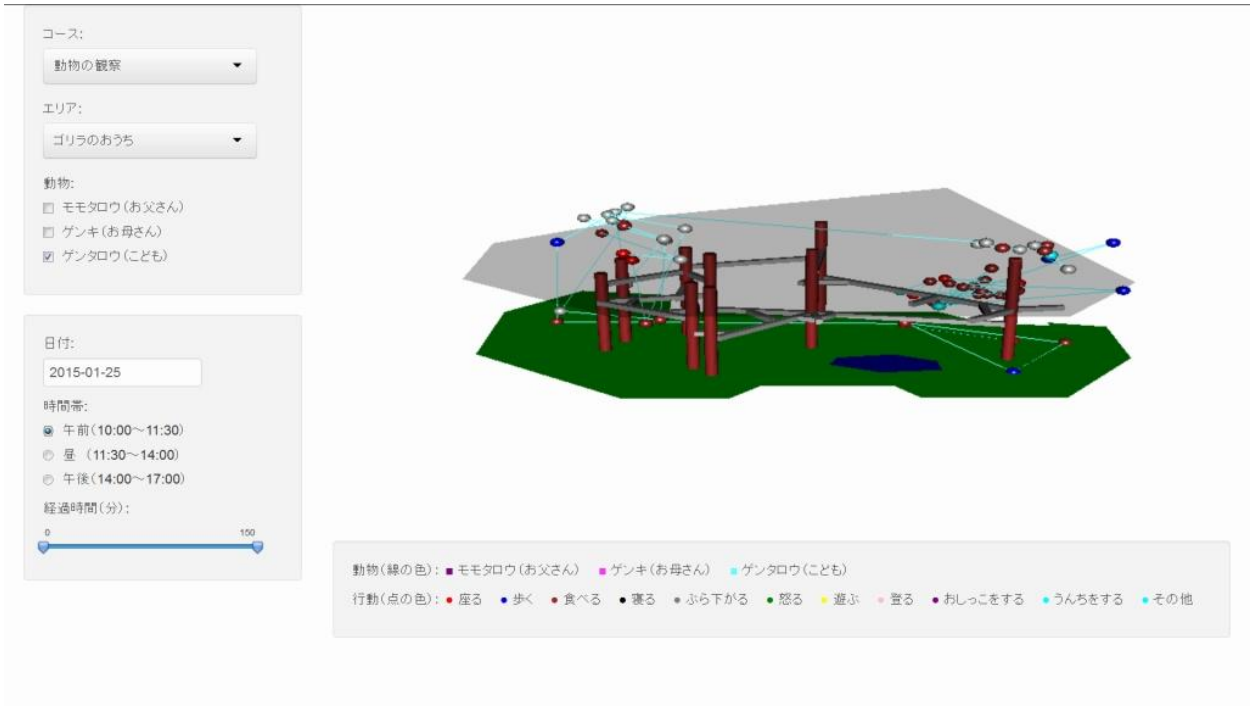
ゴリラはグラウンドに出てくるとまずは，餌を探し始めます。いつもと違う雰囲気を感じている様子です。ちなみに，モモタロウは餌の中に吊るし柿が含まれているのに気付くと，ほとんど見つけて独り占めしてしまいました。
こうして，朝の探索・採食行動を観察してデータを収集しました。そのデータは，以下のように集積され，その結果は日常から飼育員が感じている行動パターンと同様なものとなりました。




モモタロウの行動の軌跡です。



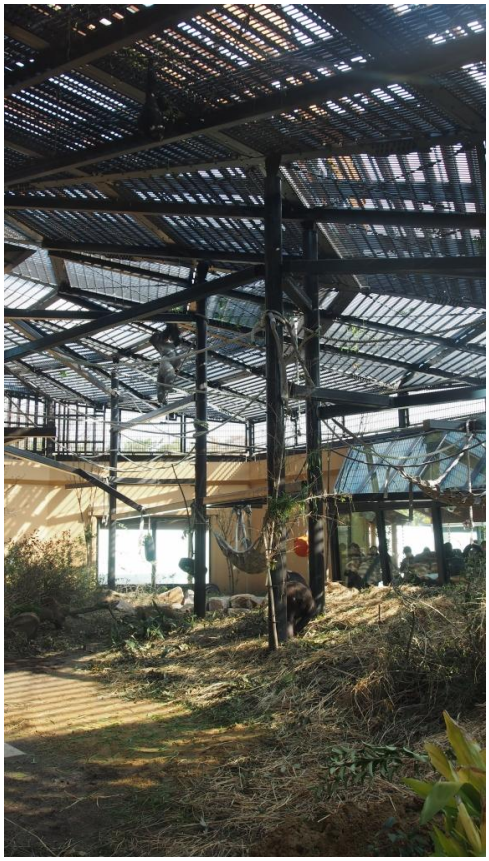

ゲンキの行動の軌跡です。




ゲンタロウの行動の軌跡です。

これらの行動の軌跡を調査することで,個々のグラウンドの利用状況及び行動パターンや個体間の関係等が見えてきます。あなたにはどのように見えますか？

参加者は今回の体験を通して,動物の行動調査や環境エンリッチメントについて学ぶことが出来たのではないかと思います。



なお，講座時間内には観察できませんでしたが，さっそくゲンタロウが植樹した樹の間を走りながら枝の跳ね返りや通り抜ける際に出る音を楽しんでいるようでした。
最後に，グラウンドではお父さんに全部取られてしまった吊るし柿をこっそり挙げておきました。

京都市動物園　生き物・学び・研究センター
Tel: 075-771-0210（代）
mail:ikimonomanabi@city.kyoto.jp

生き物・学び・研究センター
課長補佐　和田晴太郎